

カラーユニバーサルデザイン

道内でも関心高まる

【札幌】近年、多くの製品や施設、サービスなどに取り入れられているカラーユニバーサルデザイン(CUD)。CUDは、全ての情報が正確に伝わるよう利用者の視点に立つて作られたデザインのこと。昨年10月には札幌市内で認証製品や施設を紹介するイベントが開かれた。関心が高まっている。イベントを主催したNPO法人「北海道カラーユニバーサルデザイン機構(北海道CUDO)」に現状や胆振管内での取り組みなどを聞いた。(北川誠)

人間の目には光を感じる「錐体」という細胞があり、

全体で約320万人、道内には約14万人の色弱者がいると推定されている。10年以上前の充電器は、充電中にLEDが赤く点灯、終了すると緑色に光るようになっていたが、これでは緑と赤の区別が付けにくい色弱者にとって充電中なのか終了なのか分からない。一般の見え方だけを考えて作られている製品では、色弱者が情報を読み取れず不便を感じるケースが見逃されている。製造鉄記念室蘭病院(室蘭市

色弱者に正しく情報伝達

錐体には赤の光を主に感じるL、緑の光を感じるM、青い光を感じるSの3種類がある。3種類の錐体のいずれかが無い、もしくは1種類しか無かったり全くなかったりする人を色弱者という。北海道CUDOによると、日本人男性の20人に1人、女性の50人に1人が色弱者で、日本

知利別町)は新日鉄室蘭総合病院時代の2010年(平成22年)1月、ホームページのリニューアルに伴い道内病院で初めてCUD認証を取得した。文字や図表などを色弱者に配慮した色調としたほか、目的の情報に素早く誘導するデザインを心掛けた。同院関連施設の「サテライトクリニック高砂」や「介護老人保健施設「憩」のホームページ

製鉄記念室蘭病院のHPや伊達市総合体育館案内板…



道内病院で初めてCUD認証を取得した製鉄記念室蘭病院のホームページ

知利別町)は新日鉄室蘭総合病院時代の2010年(平成22年)1月、ホームページのリニューアルに伴い道内病院で初めてCUD認証を取得した。文字や図表などを色弱者に配慮した色調としたほか、目的の情報に素早く誘導するデザインを心掛けた。同院関連施設の「サテライトクリニック高砂」や「介護老人保健施設「憩」のホームページ

という意見が強まり、2003年度から必須項目から削除された経緯がある。色覚検査を行わなかった子どもたちが就職する際に、初めて自分が色弱者だと気付くケースもあるという。行政には企業や関連団体と連携し、色弱者に対してどういった職業が不向きか、といった情報を提供するなど、色弱者が暮らしやすい社会環境を整えることが求められている。